

# 矢作川流域圏懇談会 第10回 全体会議



市民部会



根羽村・恵那市・豊田市  
でのフィールドワーク



山部会



矢作川・籠川での現地視察  
川部会



佐久島での現地視察  
海部会



矢作川流域のゆるキャラ  
はぎぼう



# WEB会議に参加される皆さまへおねがい

下記の事項に留意してご参加ください



## ①本会議はWEB会議です

- 会議の開始・終了時刻を守りましょう。
- 意見交換のタイミング以外は、事務局、各座長、10年誌編集委員会メンバー(洲崎様)のみの発言に限ります。

## ②意見交換時

- 本WEB会議システムには、「挙手」機能が搭載されています。意見のある方は、挙手ボタンを押してください。事務局もしくは座長が指名するまで、発言は控えるようお願いいたします。
- 多くの参加者が発言できるよう、発言時間は長くないようにしましょう。
- お互いの意見をよく聞き、それぞれの発言を尊重しましょう。
- 「チャット」機能を活用し建設的な議論を行いましょう。ただし、私語や談論は慎んでください。

※マナーを守って参加してください。

遵守出来ない場合は退出していただくことがあります

# 全体会議の次第

1. 開会
2. 全体会議座長 あいさつ
3. 矢作川流域圏懇談会とは（設立要旨・規約・情報公開）
4. 今年度の取り組みと成果
  - （1）懇談会の運営方針について
  - （2）市民部会と地域部会の今年度の活動進捗報告と成果
  - （3）河川整備計画フォローアップ等について
  - （4）矢作川流域圏懇談会10年誌について
  - （5）意見交換①(今年度の活動に関するとりまとめ)
5. 今後の計画
  - （1）今後の体制等について
  - （2）矢作川流域圏懇談会ホームページの紹介
6. 意見交換②(今後の展望・まとめ)
7. 情報共有・連絡事項など
8. 閉会



# 1. 開会

矢作川流域圏懇談会 第10回 全体会議

開 会



## 2. 全体会議座長 あいさつ

全体会議座長あいさつ



# 3. 矢作川流域圏懇談会とは

## 資料1 「矢作川流域圏懇談会」について をご参照ください

### ①懇談会設立の背景と目的

- ・矢作川水系河川整備計画（治水・利水・環境・土砂管理・維持管理・・・）の中に、民・学・官の連携・協働による取り組みが明記された。
- ・懇談会を設立することで、流域内の各組織のネットワーク化、河川整備に関わる情報共有・意見交換を図る。

### ②設立要旨・規約

### ③矢作川流域圏懇談会の情報公開

- ・原則として「公開」（個人のプライバシーに関する議事は「非公開」）
- ・今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止策による予防措置を講じたため、一般傍聴者や記者への対応等はしていない。

# 3. 矢作川流域圏懇談会とは

矢作川流域圏のあり方を検討する視点

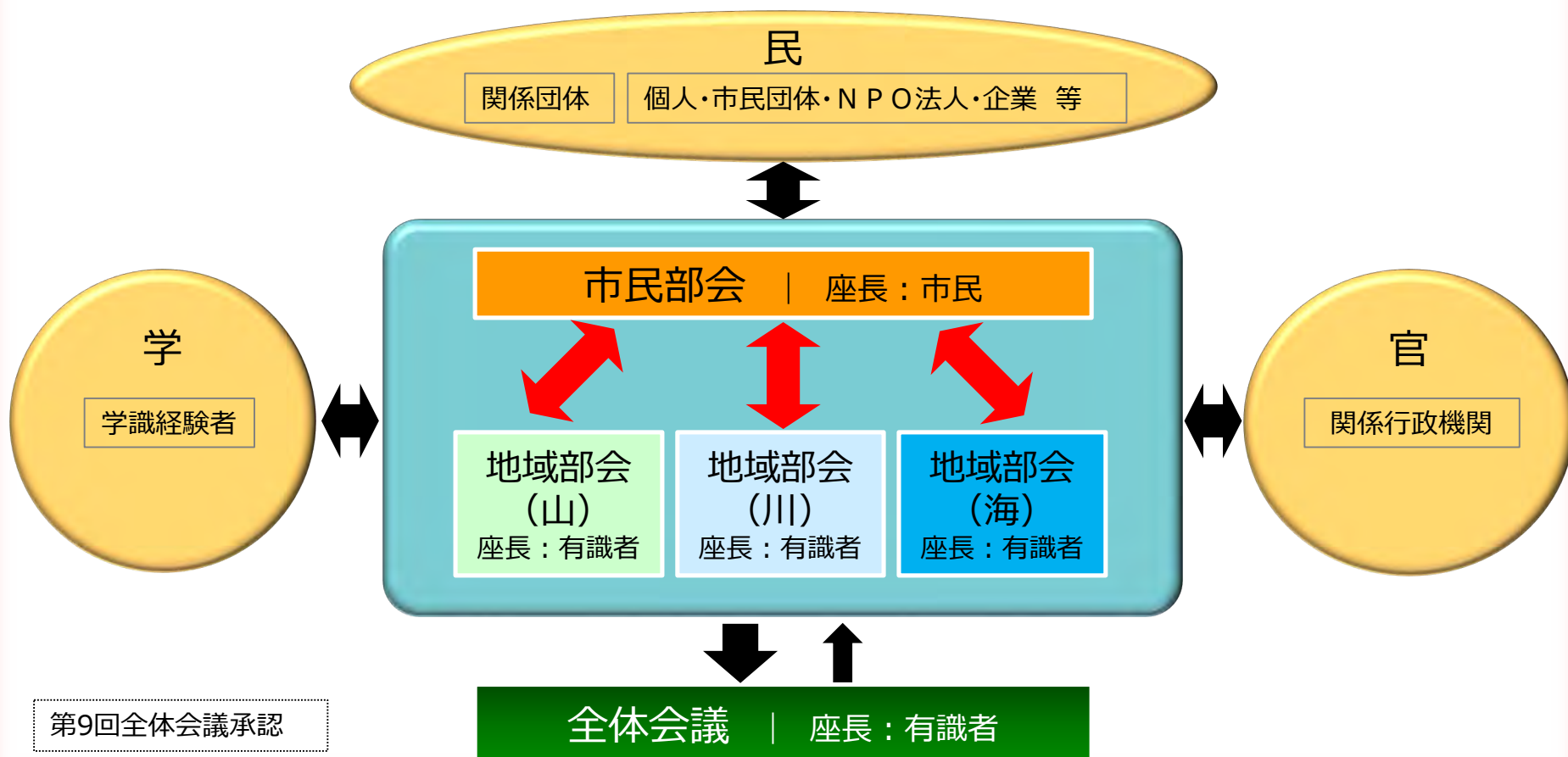
“流域は一つ、運命共同体”

93組織 392名が登録 (R2.12時点)

懇談会発足時 (H22.10)  
70組織 135名

- ①流域圏住民・関係者の連携強化
- ②流域圏住民の啓発活動

- ③行政と住民が連携した調査・研究の充実
- ④河川を中心とした流域の社会基盤形成及び地域の活性化



# 3. 矢作川流域圏懇談会とは

令和2年度実績

会議名称	役割	今年度の実施日・回数
市民部会 (4回開催)	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 住民の視点から、具体的な課題の提起や課題解決のアイデア出しなどを行う</li> <li>▶ 山・川・海の部会ごとの個別の課題や連携に向けた話し合いの場</li> <li>▶ 勉強会の企画について話し合いを行う場</li> </ul>	第7回：令和2年7月14日 第8回：令和2年10月8日 まとめの会：令和2年12月9日 チラシ作成会議：令和3年1月13日
勉強会	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 懇談会の中で挙げられた課題の解決を行う場、学びの場として市民部会発の勉強会を行い、知識の共有と相互理解を深める場</li> </ul>	令和2年9月 <span style="color: red;">※コロナのため、延期</span> ⇒令和3年6月以降実施予定
流域連携に関わるイベント	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 流域一体化の取り組みに関するイベントへの主催・参加</li> </ul>	令和2年10月10日～11日 耕LifeSDG'sマルシェ with矢作川感謝祭 ※10日は台風の影響により中止 令和2年11月6日～8日 GIJ2020 ポスター発表 令和2年12月26日～27日 ゆく川くる川 川談義
地域部会WG (ワーキンググループ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 必要に応じて開催し、具体的な課題への対応や協議・情報共有</li> </ul>	山：4回 川：3回 海：3回
地域部会まとめの会 (3回開催)	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 流域圏を山・川・海の3つに分け、それぞれの地域特性に応じた課題の明確化とその解決手法を話し合う</li> <li>▶ 民・学・官の3者が公平な立場で意見交換・情報共有を行う場</li> </ul>	川：令和2年12月22日 海：令和2年12月15日 山：令和3年1月22日
10年誌編集会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 本懇談会が10年を迎えるにあたり、これまでの成果や課題について、部会を超えて話し合う場</li> <li>▶ 事例集づくりの成果を振り返り、今後の方向性を考える場</li> </ul>	計10回（プレ会議、座談会を含む）
全体会議 (年に1回開催)	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 各部会で検討した課題やその解決手法を流域全体としてとりまとめ、情報を一元化するとともに、各部会へのフィードバックを行う</li> <li>▶ 各部会で検討した内容を総合調整する場</li> </ul>	令和3年2月19日



# 4. (1) 懇談会の運営方針について

## 【懇談会の目的・運営方針】

### 懇談会の目的

- 矢作川流域圏に関係する各組織のネットワーク化を図る
- 流域圏一体化の取り組み及び矢作川の河川整備に関わる情報共有・意見交換を図る

### 懇談会の運営方針

#### (1) 市民部会の活動の活発化

- 組織のあり方を見直し、市民部会主体のイベント、勉強会の計画を行う。

#### (2) 課題解決に向けた山・川・海部会の積極的な議論と交流

- 流域の課題解決に向けた具体的な行動を積極的に行う。
- 勉強会やイベント等を通し、山・川・海部会の関係者が協働する。

#### (3) 河川整備計画のフォローアップ

- 「河川整備に関わる情報共有・意見交換」の取り組みを全体会議で共有し、意見交換を行う。

# 4. (1) 懇談会の運営方針について

## 【令和2年度の当初目標】

### (1) 市民部会と地域部会（山・川・海）の取り組み

- これまでの各部会の活動成果を明瞭化することで、目標を明らかにしていく

部会	取り組み内容
市民	①バスツアーの開催を目指して、各地域部会から収集した意見をもとにルートや内容を企画する ②市民部会メンバーが知りたい情報や流域住民に知ってほしい情報に関する勉強会を開催する
山	①10年間をふりかえりながら、「山部会の出発点の共有」を見直す ②「流域圏担い手づくり事例集」「山村ミーティング」「森づくりガイドライン」「木づかいガイドライン」の4つのテーマについて、情報共有と意見交換を行う。 ③4つのテーマの中で融合できる内容を精査し、テーマに絞り込んだ特別WGの開催を視野に入れて議論を重ねる
川	①10年間の取り組みの成果をとりまとめる ②「本川モデル」「支川モデル」「地域連携モデル」の3つのテーマの情報共有と意見交換を行う
海	①10年間をふりかえりながら、アサリ、マイクロプラスチック、土砂の問題に対して、情報共有と意見交換を行う

### (2) 河川整備計画のフォローアップの改善

- 河川整備計画のフォローアップの取り組みを通じて流域圏一体化につなげることを目指す。

# 4.(2) 市民部会・地域部会の活動進捗報告

## 今年度の懇談会の活動・検討箇所

矢作川流域圏の上流から下流まで幅広く活動を行った。

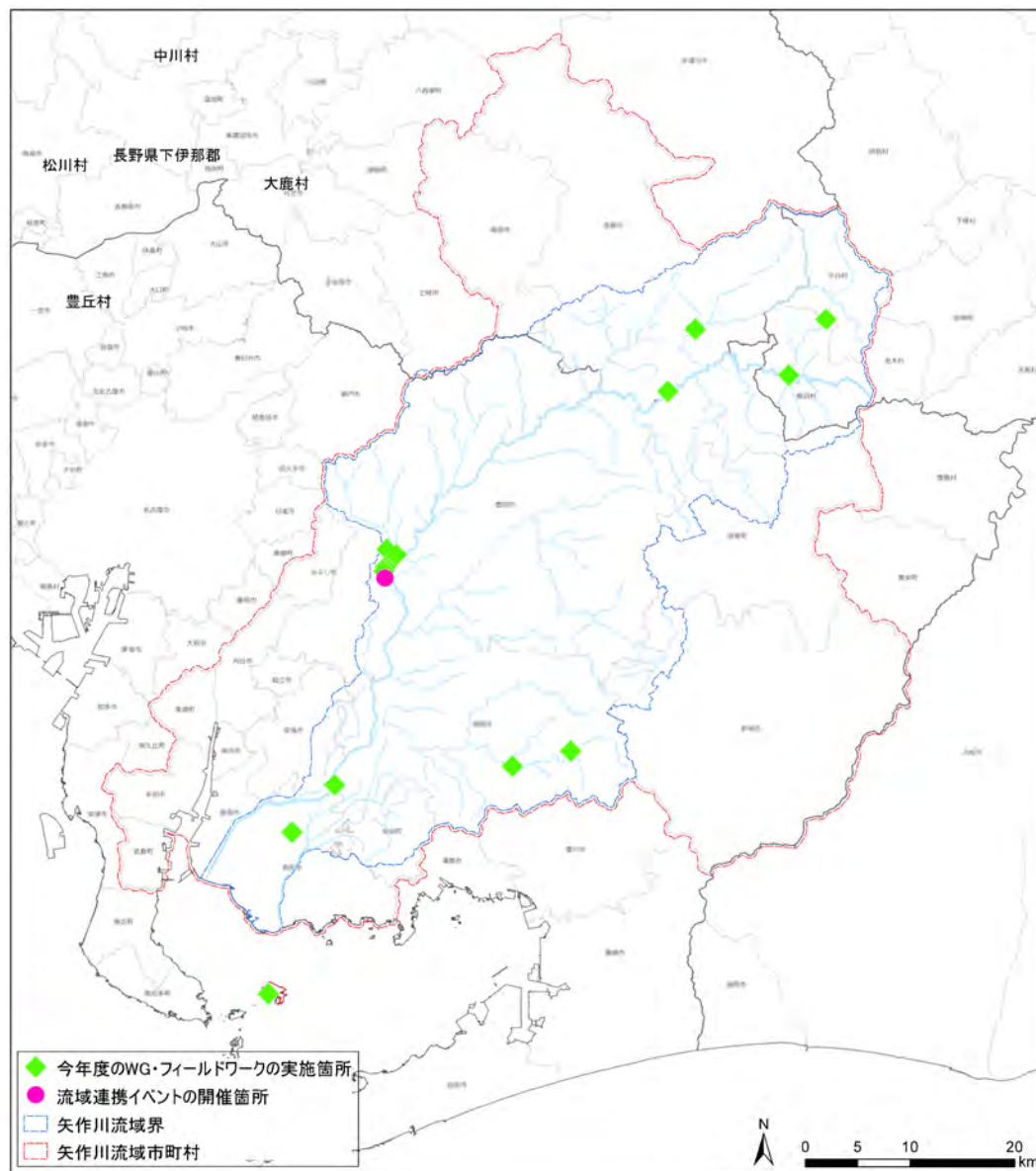
また、流域圏を越えた交流や勉強会も行った。

◆ WG・フィールドワーク・勉強会の実施箇所  
合計 13箇所

(市民部会、地域部会 (山・川・海))

● 流域連携イベントの開催箇所

- ・耕Life SDG'sマルシェ with矢作川感謝祭 (豊田市)
- ・グリーンインフラ・ネットワーク・ジャパン2020 (オンライン開催)
- ・ゆく川 くる川 川談義 (オンライン開催)



# 4.(2) 市民部会・地域部会の活動進捗報告

## 懇談会設立10年の活動・検討箇所

矢作川流域圏の上流から下流まで、幅広く活動を行った。

また、流域圏を越えた交流や勉強会も行った。

### ◆ WG・フィールドワーク・勉強会の実施箇所

合計 169 箇所

(市民部会、地域部会 (山・川・海))

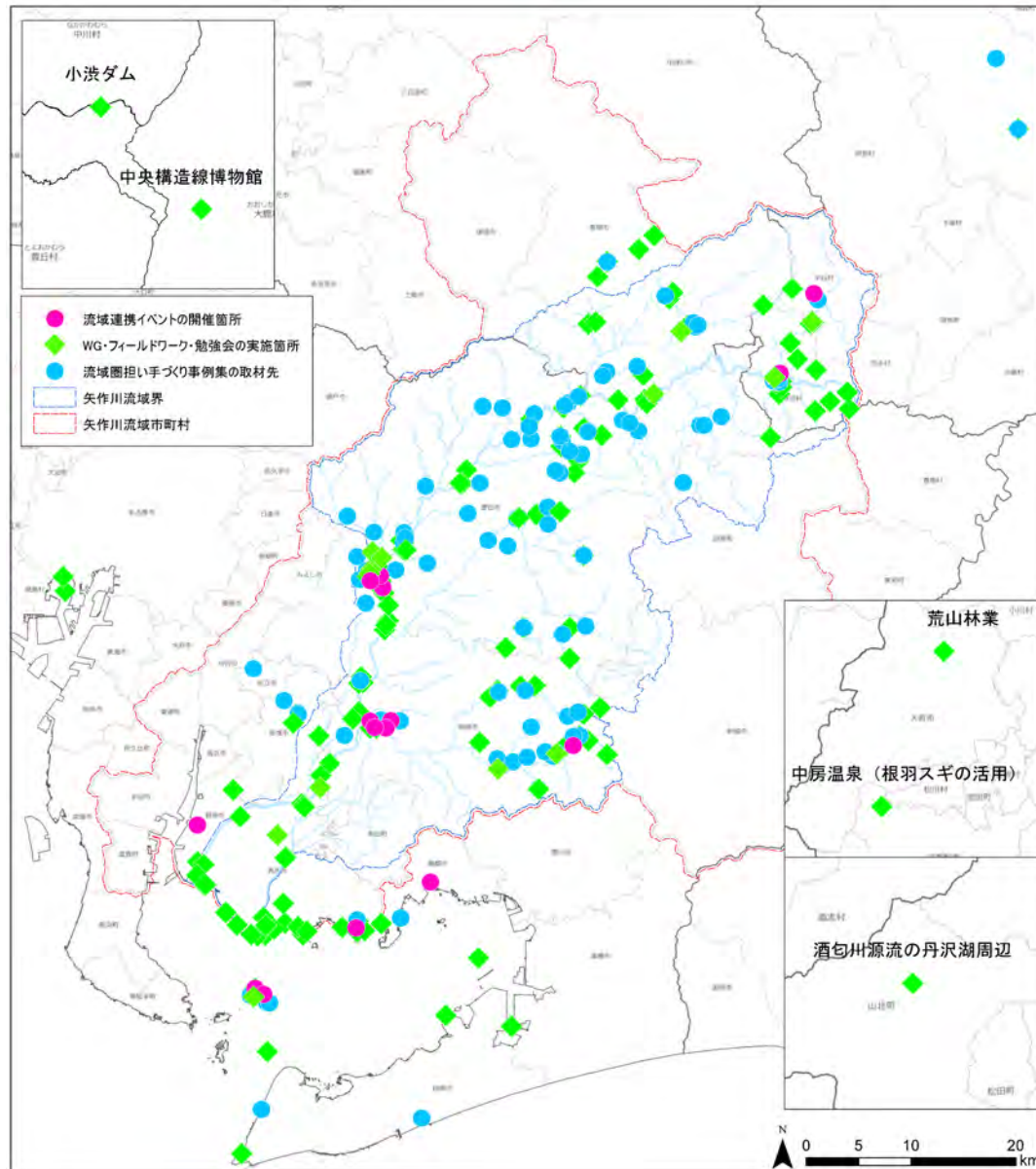
### ● 流域圏担い手づくり事例集の取材先

合計 102 団体

- ・山に関する担い手： 79 団体
- ・川に関する担い手： 17 団体
- ・海に関する担い手： 6 団体

### ● 流域連携イベントの開催箇所

- ・事例集交流会 (根羽村、西尾市、岡崎市)
- ・矢作川感謝祭 (豊田市)
- ・海ごみ減らそうフォーラム (岡崎市)
- ・三河湾大感謝祭 (蒲郡市、碧南市)



## 4.(2) 市民部会の活動進捗報告 | 令和2年度の活動スケジュール

市民部会の活動として、WGを2回、まとめの会を1回、チラシ作成会議を1回実施した。

活動（参加者数）	日 時	場 所
第7回WG（14名）	7月14日（火） 14:10-16:30	・豊田市崇化館交流館4階 第2会議室
第8回WG（12名）	10月8日（木） 14:00-16:00	・豊田市崇化館交流館4階 第2会議室
第2回市民部会 まとめの会（10名）	12月9日（水） 14:00～16:00	・豊田市崇化館交流館2階 大会議室
チラシ作成会議（11名）	1月13日（水） 14:00～16:00	・豊田市崇化館交流館4階 視聴覚室

※参加人数はオンライン参加者、事務局含む

# 4. (2) 市民部会の活動進捗報告 | 令和2年度の活動成果

## 今年度の活動目標に対する進捗状況

＜今年度に検討した目標①：矢作川を巡るバスツアーの開催を目指して、各地域部会の意見をもとに、バスツアーのルートおよび内容を企画する＞

○ 矢作川流域圏懇談会 会員全員を対象としたバスツアーの計画を行った。

～山から海まで2日がかりの「矢作川の全て」ツアー～

日時：令和2年度9月7日(月)・9月8日(火)の2日間、各々日帰りとして計画 ⇒ 延期

想定参加人数：50人程度(※参加は、矢作川流域圏懇談会メンバーに限定)

1日目 9/7(月)			2日目 9/8(火)		
時刻	場所	担当部会	時刻	場所	担当部会
8:45集合 9:00出発	豊田市駅 東口ロータリー集合		8:45集合 9:00出発	豊田市駅	
	↓			↓	
10:00到着 11:00出発	水源涵養モニタリング調査サイト (豊田市大洞町)	山部会	10:20到着 12:20出発	矢作川浄化センター (西尾市港町)	海部会
	↓			↓	
12:00到着 14:00出発	奥矢作レクリエーションセンター 教室 (恵那市串原)	山部会	13:00到着 14:00出発	吉田海岸 (西尾市吉良町)	海部会
	↓			↓	
15:00到着 15:45出発	阿摺ダム (豊田市富田町)	川部会	15:15到着 16:00出発	家下川 (豊田市榑塚東町)	川部会
	↓			↓	
16:00到着 17:15出発	阿摺ダム下流部 (豊田市富田町)	川部会	16:30到着 17:00出発	安永川トンネル (豊田市今町)	川部会
	↓			↓	
17:45到着 18:00解散	豊田市駅		17:10到着 17:30出発	明治用水頭首工 (豊田市室町)	川部会
				↓	
			17:50到着 18:00解散	豊田市駅	

# 4. (2) 市民部会の活動進捗報告 | 令和2年度の活動成果

## 今年度の活動目標に対する進捗状況

<今年度に検討した目標②：市民部会が知りたい情報や流域住民に知ってほしい情報に関する勉強会を開催する>

- 勉強会のテーマについて話し合い、近年注目を集めているマイクロプラスチックと、農薬に使用されているネオニコチノイドに決定した。

### ～①マイクロプラスチックの環境影響～

実施時期：来年度以降

講師：四日市大学環境情報学部 教授 千葉氏

場所：豊田市の大きめの会議室やホールを検討

PR方法：チラシによる広報



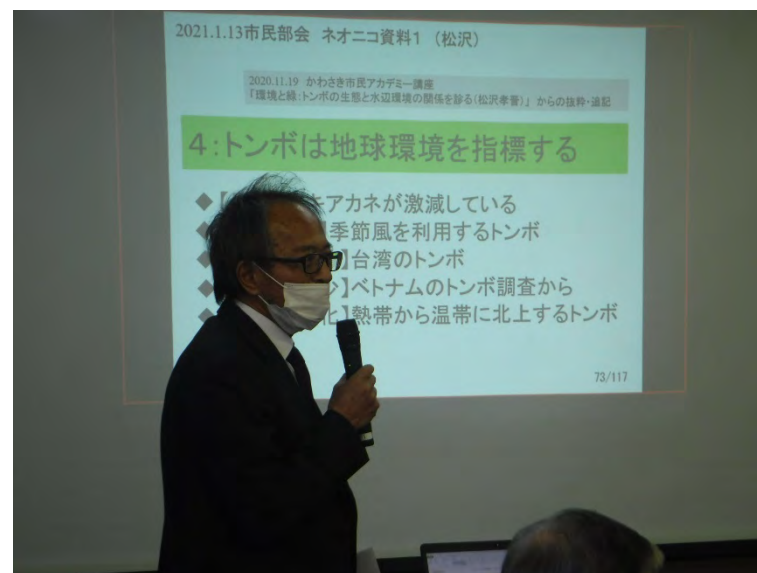
### ～②ネオニコチノイド系農薬の環境影響～

実施時期：来年度以降

講師：神奈川県立生命の星・地球博物館 苅部氏

場所：豊田市の大きめの会議室やホールを検討

PR方法：チラシによる広報



# 4.(2) 市民部会の次年度の活動目標（案）

## 次年度の活動目標（案）

- 地域部会（山・川・海）合同でのバスツアーを企画・開催する。
- 「マイクロプラスチック」と「ネオニコチノイド系農薬」の2テーマで勉強会を実施する。

## 今後の市民部会の課題・役割

- 矢作川の望ましい姿のイメージの可視化・具体的行動
- 市民部会としての流域連携テーマの議論
- 地域部会の話題・課題を把握できるシステムの構築
- 10年間で新たに見えてきた課題や問題の明確化
- 懇談会とつながりの薄い農業や工業の団体との関係構築

**山・川・海の恵みにつながる矢作川をつくる**  
**～今新たに！「流域はひとつ」生命共同体～**

矢作川の恵み・大切さを再認識し、より良い矢作川流域圏の再構築を目指し、平成30年度のWGで作成しました。



# 4. (2) 山部会の活動進捗報告

## 《令和2年度の当初目標》

10年間をふりかえりながら、「山部会の出発点の共有」を見直すとともに、これまでの4つのテーマについて、引き続き、情報共有と意見交換を行う。また、4つのテーマの中で、融合できる内容を精査し、必要に応じてテーマに絞り込んだ特別WGの開催を視野に議論を重ねる。

### <テーマ>

①流域圏担い手づくり事例集

### <解決手法>

- ・持続可能な地域づくりにつながる活動を行っている団体に取材を行い、「流域圏担い手づくり事例集Ⅲ」を刊行する。
- ・川部会、海部会を巻き込んだ流域全体の担い手を発掘する活動とする。
- ・これまでの事例集づくりで得られた情報と、取材先団体のカテゴリーや団体間の関係を整理し、現段階での事例集づくりの成果をまとめ、流域圏懇談会10年誌に掲載する。
- ・事例集の活用方法と、今後の事例集づくりの方向性について検討する。

# 4. (2) 山部会の活動進捗報告

## <テーマ>

## <解決手法>

### ②山村ミーティング

- ・矢作川流域林業担い手100人ヒアリングの結果をふまえ、林業技術者と市民の協働による「**流域の森づくりガイドライン**」を策定する（③森づくりガイドラインとの協働を想定する）。
- ・ガイドラインの作成においては、林業技術者に直接意見を伺うなど、**懇談会との連携を強化**する（担い手の創出）。
- ・矢作川感謝祭への森林組合員の参加が定着してきたため、このイベントをどのように活用するか、さらに検討を行っていく。

### ③森づくりガイドライン

- ・矢作川流域の森を守っているプロたちが、その仕事の意味や重要性を理解し、誇りをもって作業を行うための指針となり、同時に、矢作川流域の恵みで生きる河川管理者、沿岸漁業者、流域住民が、流域の森を守っているプロたちの作業の公益的な重要性を理解し、彼らをリスペクトし、応援するための指針となることを目的とした「**森づくりガイドライン**」づくりに取り組む。（②山村ミーティングとの協働を想定する）。
- ・**森林経営管理法**、**森林環境譲与税**などの国の新たな動きを踏まえつつ、流域市町村の森林施策の着実な進行を後方支援し、**流域圏全体として調和のとれた森づくり**を目指す。
- ・水循環基本法に定められた森林の雨水浸透能力又は水源涵養能力の整備について、**矢作川流域における関係省庁や地方自治体の施策をフォローアップ**する。

# 4. (2) 山部会の活動進捗報告

## <テーマ>

### ④木づかいガイドライン

## <解決手法>

- ・矢作川流域内の各関係者が取り組まれている、木づかい活動や推進テーマを「さあ～しよう」の形で提案していただくことにより情報を共有化し、流域内の身近な木を利用した、木づかいが推進されるように「**木づかいガイドライン**」を作成する。
- ・矢作川の流れを絆として、個人の思い出を込めて流域が一体となることの大切さを伝えるアイテム「**矢作川流域ものさし・私の流域物語**」を有志で製作し、これを全国の各流域に配布することによって**全国の各流域においてその理念と製作方法を普及**する。
- ・「矢作川流域ものさし・私の流域物語」の理念とは、「流域はひとつ運命共同体」・「水を使うものは自ら水をつくるべし」といった、全国にも通用する矢作川の流域思想であり、こうした思想と共にある**矢作川流域圏懇談会の取り組みについて全国の流域関係者に向けて発信**する。
- ・「私の流域物語」に記載された物語に関わる場所での「木づかいライブスギダラキャラバン(木育キャラバン)」の実施や、個人の思い出を尊重した木づかいによる**市民創造型・労働参加型・課題解決型プロジェクトを実施**する。
- ・こうした取り組みを通して矢作川の流域材を活用した楽しい「木のある暮らし」を定着させ「木づかいによる場所の力づくり=プレイスメイキング」によって**身近な生活空間を魅力的な地域空間に変革**していく。
- ・こうしたプレイスメイキングに際し、**地域住民や地域の子どもたち**が一緒になって活動することにより、特に子どもたちに対して、**地域資源と共に生きていく様々な原体験の場を提供**していく。

## 4. (2) 山部会の活動進捗報告 | 令和2年度の活動スケジュール

今年度の活動としてWG4回、フィールドワーク3回、まとめの会を1回開催した。

活動（参加者数）	日時	場所
第55回WG（32名）	7月3日（金） 13：30～17：10	（岡崎市） ・岡崎市額田センター「こもれびかん」（集会室）
第56回WG（20名）	8月28日（金） 13：30～17：00	（根羽村） ・根羽村老人福祉センター「しゃくなげ」
フィールドワーク①（12名）	8月29日（土） 9：30～12：00	（根羽村） ・山地酪農実験地 ・小柄私有林植栽地 ・万場瀬集落周辺森林 ・ハナモモ植栽地
第57回WG（19名）	10月23日（金） 13：30～17：00	（恵那市） ・恵那市上矢作振興事務所 講堂
フィールドワーク②（15名）	10月24日（土） 9：30～12：00	（恵那市） ・奥矢作 串原大野地区
第58回WG（18名）	12月4日（金） 13：30～17：00	（豊田市） ・豊田市崇化館交流館 3階 第1研修室
フィールドワーク③（16名）	12月5日（土） 10：00～12：00	（豊田市） ・とよしば～駅前通り～矢作川（白浜公園・豊田大橋）
第12回山部会 まとめの会（21名）	1月22日（金） 14：00～16：30	（オンライン開催） ・設立以来初の完全オンラインWG

※参加人数はオンライン参加者、事務局含む

# 4. (2) 山部会の活動進捗報告 | 令和2年度の活動成果

## ①流域圏担い手づくり事例集 | 今年度の活動方針に対する進捗状況

### <「矢作川流域圏懇談会 10年誌」の作成>

- 矢作川流域圏懇談会は、今年度の8月に設立10周年を迎えた。これを機に、「矢作川流域圏懇談会10年誌」を作成し、その中で、これまでの事例集づくりの成果を振り返り、矢作川流域を支えてきた人びとの動きと今後の展望についてまとめた。

### <川部会・海部会を巻き込んだ流域全体の担い手を発掘する活動>

- 豊田市で開催された「耕LifeSDG'sマルシェ」の中で「矢作川感謝祭」が実施された。岡森フォレストーズの演奏、矢作川カップクイズのほか「山、川、里、海のトークセッション」にコーディネーターおよび登壇者として懇談会メンバーが参加し、川と流域に対する想い、みんなが生き生きと暮らせる持続可能な流域づくりについて語り合った。
- 「ゆく川 くる川 川談義」において、本懇談会の紹介と10年の実績を全国に向けて発信した。



矢作川感謝祭 山、川、里、海のトークセッション



「ゆく川 くる川 川談義」における懇談会の発信

# 4. (2) 山部会の活動進捗報告 | 令和2年度の活動成果

## ① 流域圏担い手づくり事例集 | 今年度の活動方針に対する進捗状況

### <事例集の活用方法と、今後の事例集づくりの方向性についての検討>

- 10年誌の中で活動実績をカテゴリー別に再整理し、懇談会関係者以外の閲覧を考慮して分かりやすいものとした。
- グリーンインフラ・ネットワーク・ジャパン2020に参加し、本懇談会の紹介、流域圏担い手づくり事例集の活動成果について、ポスター発表を行った（下図は、ポスターを一部抜粋）。

A-010

## 矢作川流域圏の担い手づくり事例集 —持続可能な流域づくりを支える人びと—

... Collection of practice to support sustainable Yahagi River watershed ...

洲崎燈子\*、近藤朗、高橋伸夫、浜口美穂、中田慎、石原淳（矢作川流域圏懇談会）

### 要旨

国土交通省豊橋河川事務所は2010年に、流域圏全体の発展をめざし「矢作川流域圏懇談会」を立ち上げた。山・川・海の3つの地域部会のうち山部会は、中山間地振興や川や海的环境保全に関わる活動を行う団体に取材を行い、計6冊の「山村再生担い手づくり事例集」と「流域圏担い手づくり事例集」を発行した。取材対象となった団体の活動は多様で、大きな経済的利益は生まなくても、地域の自然資源を活かし、流域内でお金、人材、物がまわる流域内フェアトレードの形成を通じ、持続可能な流域づくりに貢献していると考えられた。



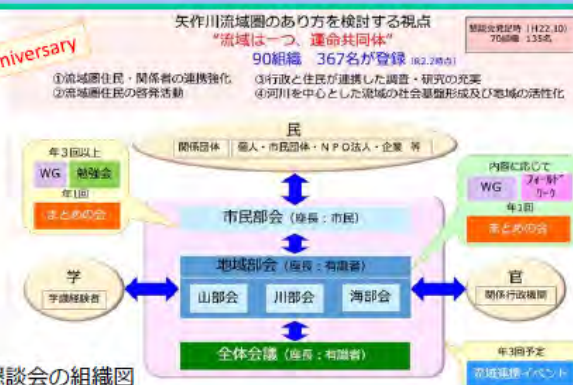
### 矢作川流域圏懇談会について

長野、岐阜、愛知の3県を流れる矢作川には、矢作川沿岸水質保全対策協議会の活動に代表されるように、“流域は一つ、運命共同体”という共通認識のもとでさまざまな課題に取り組んできた歴史がある。

2009（平成21）年7月に河川法に基づいて「矢作川水系河川整備計画」が策定され、その中で治水、利水、環境、総合土砂管理、維持管理などの課題に対し、民・学・官の連携・協働による取組が必要であることが明記された。これを受けて国土交通省豊橋河川事務所は2010（平成22）年8月、流域住民・関係機関も含めた話し合いを通じて連携・協働の取組を行うことで、流域圏全体の発展につなげることをめざす「矢作川流域圏懇談会」を立ち上げた。

同懇談会は市民部会、地域部会（山・川・海）で構成され、各部会で学識者・行政・関係団体・市民団体などのメンバーが連携して地域の課題を抽出し、その解決方法を探っている。また部会間の連携によって、持続可能な流域圏のあり方を模索している。

矢作川流域圏懇談会の組織図



# 4. (2) 山部会の活動進捗報告 | 令和2年度の活動成果

## ②山村ミーティング | 今年度の活動方針に対する進捗状況

### <矢作川流域林業担い手100人ヒヤリングの結果をふまえた「流域の森づくりガイドライン」の策定>

- 今年度は、他のテーマ、とりわけ「森づくりガイドライン」とのつながりを重視し、林業の担い手が集まるミーティングを実施しながら、現場の生の声を聞き、ガイドラインづくりに参画できる体制を模索している。

### <林業技術者と流域圏懇談会との連携強化>

- WGでは、岡崎市、根羽村、恵那市、豊田市を訪れ、各地域の林業に携わる方からお話をいただき、懇談会との連携や今後の展開などについて、意見交換を行った。
- 森づくりガイドラインと協働で、「研究者、市民ボランティア、山林現場技能者によるガイドラインづくり」と「森づくりの健康診断」を進めていく計画を立て、地球環境基金の助成金に応募した。



林業関係者による現地説明（恵那市）



林業関係者による現地説明（根羽村）

# 4. (2) 山部会の活動進捗報告 | 令和2年度の活動成果

## ②山村ミーティング | 今年度の活動方針に対する進捗状況

### <流域で開催されるイベントへの参加>

- 今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当初予定していた「矢作川感謝祭」「三河湾大感謝祭」などが中止となった。しかし、その代替りとして、豊田市で開催された「耕LifeSDG'sマルシェ」の中で「矢作川感謝祭」が実施された。岡森フォレスターズの演奏、矢作川カップクイズのほか「山、川、里、海のトークセッション」にコーディネーターおよび登壇者として懇談会メンバーが参加し、川と流域に対する想い、みんなが生き生きと暮らせる持続可能な流域づくりについて語った。



矢作川感謝祭で演奏する岡森フォレスターズと山、川、海のトークセッションで意見を出し合う懇談会メンバー



# 4. (2) 山部会の活動進捗報告 | 令和2年度の活動成果

## ③ 森づくりガイドライン | 今年度の活動方針に対する進捗状況

### <「森づくりガイドライン」づくりをめざして>

- 「矢作川流域の森づくりガイドライン」の策定を進めていくため、ガイドライン策定作業への林業技術者の協力をお願いする文書案、ガイドライン策定会議の企画案について、検討を行った。
- 山村ミーティングと協働で、「研究者、市民ボランティア、山林現場技能者によるガイドラインづくり」と「森づくりの健康診断」を進めていく計画を立て、地球環境基金の助成金に応募した。

### <流域圏全体として調和のとれた森づくり>

- 岡崎市、恵那市において、森林環境譲与税の使い道に関する取り組みを、県や市の担当者より報告いただき、意見交換を行った。
- 岡崎市では、令和元～2年度に進行中の「岡崎市森林整備ビジョン」の見直しの進捗状況について説明を受け、意見交換を行った。
- 恵那市では、フィールドワークとして奥矢作森林塾を訪れ、森林資源管理、森林環境譲与税、地域循環利用などについて説明を聞き、今後の展開などについて、意見交換を行った。



森林整備ビジョンの見直しの進捗報告（岡崎市森林課）



森林環境譲与税の活用報告（恵那市林政課）

# 4.(2) 山部会の活動進捗報告 | 令和2年度の活動成果

## ③ 森づくりガイドライン | 今年度の活動方針に対する進捗状況

### < 矢作川流域における森林の雨水浸透能力又は水源涵養能力の整備 >

- 次年度開催されるバスツアーで、豊田市の水源涵養モニタリングサイトを見学する予定であるため、関係者で下見を行うとともに、説明事項に関する打合せを行った。



バスツアーで見学が予定される豊田市の水源涵養モニタリングサイトの下見

- 岡崎市が、乙川で実施している間伐の推進による緑のダム機能向上について、モデル林の選定や実験施設の設置を通して、モニタリング調査を継続的に実施することを、森林整備ビジョンに掲げる個別施策の1つに盛り込む方向で検討していることが情報共有された。

# 4. (2) 山部会の活動進捗報告 | 令和2年度の活動成果

## ④木づかいガイドライン | 今年度の活動方針に対する進捗状況

### <「木づかいガイドライン」の作成>

- ・木づかいの推進については、根羽村森林組合が中心となって「木づかいライブ・スギダラキャラバン」を進めている。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くのイベントが中止になったが、3月には岐阜女子大学の学生による木材を使った家具製作実習を行った。また、愛知教育大学とも木育関係での取り組みを行った。

### <「矢作川流域ものさし・私の流域物語」を製作、その理念と製作方法を普及>

- 10年誌の中で、私の流域物語の意義や方法を示した。特に、流域を魅力的にするのは、流域に住む人の気持ちの総熱量であり、地域の持っている自然の特性が、個人の熱量を生み出し、それら個人の熱量が結びつくことで、地域を魅力的に変えていく力に変わる。

### <「木づかいライブスギダラキャラバン(木育キャラバン)」、木づかいによる市民創造型・労働参加型・課題解決型プロジェクトの実施>

- 市民創造型の取り組みとして、名古屋市のほしざき保育園の伐採された園内のケヤキを利用したベンチ製作の事例を挙げた。保育園の改修のため伐採されたケヤキは、ずっと子どもたちの成長を見守り続けてきた。今度は、ベンチに生まれ変わって、子どもたちの毎日に寄り添うことになった。



岐阜女子大学 住居学専攻の事例



ほしざき保育園の伐採されたケヤキを活用した事例

## 4.(2) 山部会の活動進捗報告 | 令和2年度の活動成果

### ④木づかいガイドライン | 今年度の活動方針に対する進捗状況

#### <楽しい「木のある暮らし」を定着>

- 今年度取り組みを行った「子どものための今すぐはじめる森と木のある暮らし事業」について、報告を行った。



製材工場の素材で製作した長椅子

⇒本事業は、普段の生活の中で「森や木のある暮らし」が実践できるように、森林整備や木を活用する体験プログラムを造成することを目的とする事業である。今回のWGでは、実際にプログラムで使われているウッドデッキや端材で作った椅子などを見ながら、プログラム内容などについて話し合いを行った。

# 4. (2) 山部会の活動進捗報告 | 令和2年度の活動成果

## ④木づかいガイドライン | 今年度の活動方針に対する進捗状況

### <地域住民や子どもたちに対して、様々な原体験の場を提供>

- 南信州及び矢作川流域の小中学生を対象に、普段の生活の中で「森や木のある暮らし」が実践できるように、森林整備や木を活用する体験プログラムが計画・実施できる事業が紹介された。
- 実際のプログラムの中で使用されるウッドデッキや椅子などを参加者で確認した。

⇒小学生と中学生が一緒になってウッドデッキを製作した。小学生はデッキの仮組みを、中学生はデッキ材料をロープワークで山の上に上げてデッキを製作・設置した。急峻な尾根の上でもロープワークによって素敵なウッドデッキのある空間ができた。このデッキの上で、お弁当を広げたり、森寝、森ヨガを行ったり、レールランの基地や、ボルダリングデッキとしても活用する。



根羽学園の小学生によるデッキの仮組み ウッドデッキ設置によるプレイスメイキング

# 4.(2) 山部会の次年度の活動目標 (案)

## 来年度の活動目標 (案)

来年度は、これまでの4つのテーマについて、ひきつづき情報共有と意見交換を行う。また、4つのテーマの中で、共通する課題については、協働しながら解決策を議論する。

## テーマ別の活動目標 (案)

### ① 流域圏担い手づくり事例集

- ・持続可能な地域づくりにつながる活動を行っている団体に取材を行い、「流域圏担い手づくり事例集Ⅲ」を刊行する。
- ・特に山、川、海のエリアと都市をつなぐ活動に着目して取材を行う。
- ・川部会、海部会を巻き込んだ流域全体の担い手を発掘する活動とする。
- ・事例集の活用方法と、今後の事例集づくりの方向性について検討する。

# 4. (2) 山部会の次年度の活動目標 (案)

## ②山村ミーティング

- ・ガイドラインの作成においては、林業技術者に直接意見を伺うなど、懇談会との連携を強化する(担い手の創出)。
- ・矢作川感謝祭への森林組合員の参加が定着してきたため、このイベントをどのように活用するか、更に検討を行っていく。

## ③森づくりガイドライン

- ・森林経営管理法、森林環境譲与税などの国の新たな動きを踏まえつつ、流域市町村の森林施策の着実な進行を後方支援し、流域圏全体として調和のとれた森づくりを目指す。
- ・水循環基本法に定められた森林の雨水浸透能力または水源涵養能力の整備について、矢作川流域における関係省庁や地方自治体の施策をフォローアップする。

## ②山村ミーティングと③森づくりガイドラインの協働

- ・矢作川流域の森を守っているプロたちが、その仕事の意味や重要性を理解し、誇りをもって作業を行うための指針となり、同時に、矢作川流域の恵みで生きる河川管理者、沿岸漁業者、流域住民が、流域の森を守っているプロたちの作業の公益的な重要性を理解し、彼らをリスペクトし、応援するための指針となることを目的とした「流域の森づくりガイドライン」づくりに取り組む。

## 4.(2) 山部会の次年度の活動目標 (案)

### ④木づかいガイドライン

- ・矢作川流域内の各関係者が取り組まれている木づかい活動や推進テーマを「さあ～しよう」の形で提案していただくことにより情報を共有化し、流域内の身近な木を利用した木づかいが推進されるように「木づかいガイドライン」を作成する。
- ・矢作川の流れを絆として、個人の思い入れを込めて流域が一体となることの大切さを伝えるアイテム「矢作川流域ものさし・私の流域物語」を有志で製作し、これを全国の各流域に配布することによって、全国の各流域において、その理念と製作方法を普及する。
- ・「矢作川流域ものさし・私の流域物語」の理念とは、「流域はひとつ運命共同体」・「水を使うものは自ら水をつくるべし」といった全国にも通用する矢作川の流域思想であり、こうした思想と共にある矢作川流域圏懇談会の取り組みについて、全国の流域関係者に向けて発信する。
- ・「私の流域物語」に記載された物語に関わる場所での「木づかいライブ スギダラキャラバン(木育キャラバン)」の実施や、個人の思い入れを尊重した木づかいによる市民創造型・労働参加型・課題解決型プロジェクトを実施する。
- ・こうした取り組みを通して矢作川の流域材を活用した楽しい「木のある暮らし」を定着させ「木づかいによる場所の力づくり＝プレイスメイキング」によって、身近な生活空間を魅力的な地域空間に変革していく。
- ・こうしたプレイスメイキングに際し、地域住民や地域の子どもたちが一緒になって活動することにより、特に子どもたちに対して、地域資源と共に生きていく様々な原体験の場を提供していく。



# 4. (2) 川部会の活動進捗報告

## 《令和2年度の当初目標》

10年間の取り組みの成果をとりまとめるとともに、これまでのテーマについて、引き続き情報共有と意見交換を行う。

### <テーマ>

### <解決手法>

上下流問題  
(生き物の棲みやすい  
川づくり)

#### ①本川モデル

- ・土砂や川の形、生物の視点からの川の望ましい像に関する意見交換
- ・置き土実験に関する情報共有
- ・川部会が抱える課題の他部会への発信(バスツアーなどにおいて)

#### ②支川モデル

- ・水系の河川情報の集積(生物・防災・管理者の境界)
- ・川沿いウォークの実施(町中・山中の川沿いを歩くことも含める)

#### ③地域連携モデル

- ・矢作川流域圏年表の完成
- ・ごみ問題に関する情報共有

地先の問題

## 4. (2) 川部会の活動進捗報告 | 令和2年度の活動スケジュール

川部会の活動として、WGを3回、まとめの会を1回開催した。

活動（参加者数）	日時	場所
第53回WG（19名）	7月28日（火） 14:00-16:40	豊田市崇化館交流館 4階 第2会議室
第54回WG（18名）	10月13日（火） 13:15-16:30	豊田市梅坪台交流館 2階 多目的ホール
第55回WG（22名）	11月17日（火） 13:00-16:00	西尾市役所 会議棟 第2会議室
第12回川部会 まとめの会（16名）	12月22日（火） 14:00～16:00	豊田市崇化館交流館 4階 第2会議室

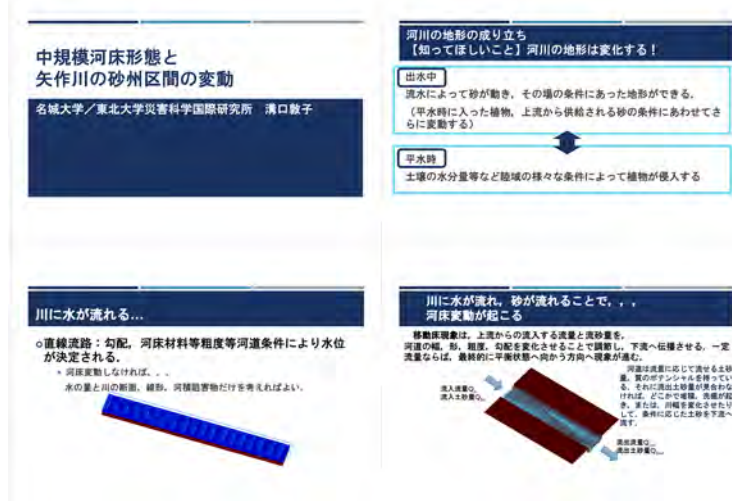
※参加人数はオンライン参加者、事務局含む

# 4. (2) 川部会の活動進捗報告 | 令和2年度の活動成果

## ①本川モデル | 今年度の活動方針に対する進捗状況

### <土砂や川の形、生物の視点からの川の望ましい像に関する意見交換>

- 名城大学溝口教授より、土砂の流れによる川の河床形態の仕組みと、矢作川下流域に形成される砂州の状況について講義していただき、現地視察を通して、矢作川本川の砂河床の状況を確認した。



河川の成り立ちについての講義 2020年11月17日

### <事業概要等に関する情報共有>

- 国土交通省豊橋河川事務所より、今年度の事業概要や、鵜の首地区水位低下対策事業の進捗、事業効果、置土の予定について、情報共有を行った。

### <川部会が抱える課題の他部会への発信(バスツアーなどにおいて)>

- バスツアーについて、阿摺ダム、明治用水頭首工、安永川トンネル、家下川の内容を計画した。

## 4.(2) 川部会の活動進捗報告 | 令和2年度の活動成果

### ②支川モデル | 今年度の活動方針に対する進捗状況

#### <水系の河川情報の集積(生物・防災・管理者の境界)>

- 矢作川水系の支川のひとつである籠川の現地視察を行い、籠川と矢作川の水生生物の生息や生育特性、籠川の整備状況と環境の変化、砂州形成の仕組みなどについて説明を聞き、砂州や植生の状況を確認した。

#### <川沿いウォークの実施(町中・山中の川沿いを歩くことも含める)>

- 籠川で川沿いウォークを実施し、支川の自然環境や河川特性、多自然川づくりにおける落差工や魚道の工夫、市民による愛護活動の状況などについて、話し合った。



籠川沿いウォーキングのようす

# 4. (2) 川部会の活動進捗報告 | 令和2年度の活動成果

## ③地域連携モデル | 今年度の活動方針に対する進捗状況

### <矢作川流域圏年表の完成>

- 10年誌編集委員の近藤氏より、矢作川流域圏年表を掲載する10年誌の作成状況について、情報共有を行った。

### <ごみ問題に関する情報共有>

- 市民部会の光岡座長より、市民部会が計画しているマイクロプラスチックとネオニコチノイドに関する勉強会について、情報共有を行った。



川部会WGの話し合いの様子

# 4. (2) 川部会の次年度の活動目標 (案)

## 次年度の活動目標 (案)

- これまでのテーマについて、複数のモデルにまたがる課題も出てきていることから、テーマの設定を見直すことも視野に入れ、引き続き、情報共有および話し合いを行う。

## テーマ別の活動方針 (例)

### ①本川モデル

- 土砂や川の形、生物、人間の視点からの川の望ましい像に関する意見交換
- 置き土実験に関する情報共有
- 川部会が抱える課題の社会への発信 (バスツアーなどにおいて)

### ②支川モデル

- 水系の河川情報の集積 (生物・防災・管理者の境界)
- 川沿いウォークの実施 (町中・山中の川沿いを歩くことも含める)

### ③地域連携モデル

- ごみ問題に関する情報共有
- 外部団体 (生態系ネットワーク協議会等) との連携

# 4. (2) 海部会の活動進捗報告 | 令和2年度の活動スケジュール

## 《令和2年度の当初目標》

10年間の取り組みをふりかえりながら、アサリの問題、マイクロプラスチック問題、土砂の問題に対して、情報共有と意見交換を行う。

### ＜テーマ＞

### ＜解決手法＞

#### ごみの問題

- ごみの質も以前とは変化してきている。特にマイクロプラスチックの問題は、拾って処分できるものではないため、最新の情報を共有する。

#### 豊かな海の再生に向けた取り組み

- アサリをはじめとする三河湾の生物資源回復に向けた具体的な取り組みに関する意見交換と、「きれいな海 = 豊かな海」ではないという認識の周知を行う。

#### 海と人の絆再生

- 海の生き物に触れ合うことによる上下流連携をめざす。
- 土砂移動に関する情報共有を行う。

## 4. (2) 海部会の活動進捗報告 | 令和2年度の活動スケジュール

海部会の活動として、WGを3回、まとめの会を1回開催した。

活動（参加者数）	日時	場所
第43回WG（27名）	7月20日（火） 13:00-15:30	・西尾市役所会議棟 2階 第4会議室
第44回WG（22名）	9月15日（火） 14:00-16:10	・西尾市役所会議棟 2階 第4会議室
第45回WG（16名）	10月27日（火） 11:00-18:00	・西尾市佐久島
第11回海部会 まとめの会（18名）	12月15日（火） 14:00-16:00	・西尾市役所会議棟 2階 第4会議室

※参加人数はオンライン参加者、事務局含む



# 4.(2) 海部会の活動進捗報告 | 令和2年度の活動成果

## ごみの問題 | 今年度の活動方針に対する進捗状況

### <ごみの問題での課題の共有>

- 愛知・川の会の近藤朗氏より、四日市大学が実施した伊勢湾・三河湾におけるマイクロプラスチックの調査結果の概要について、情報をご説明いただいた。
- 西尾市佐久島を訪れ、海岸における漂着ごみの現状やごみ問題の啓発について、話し合いを行うとともに、現地視察を行った。



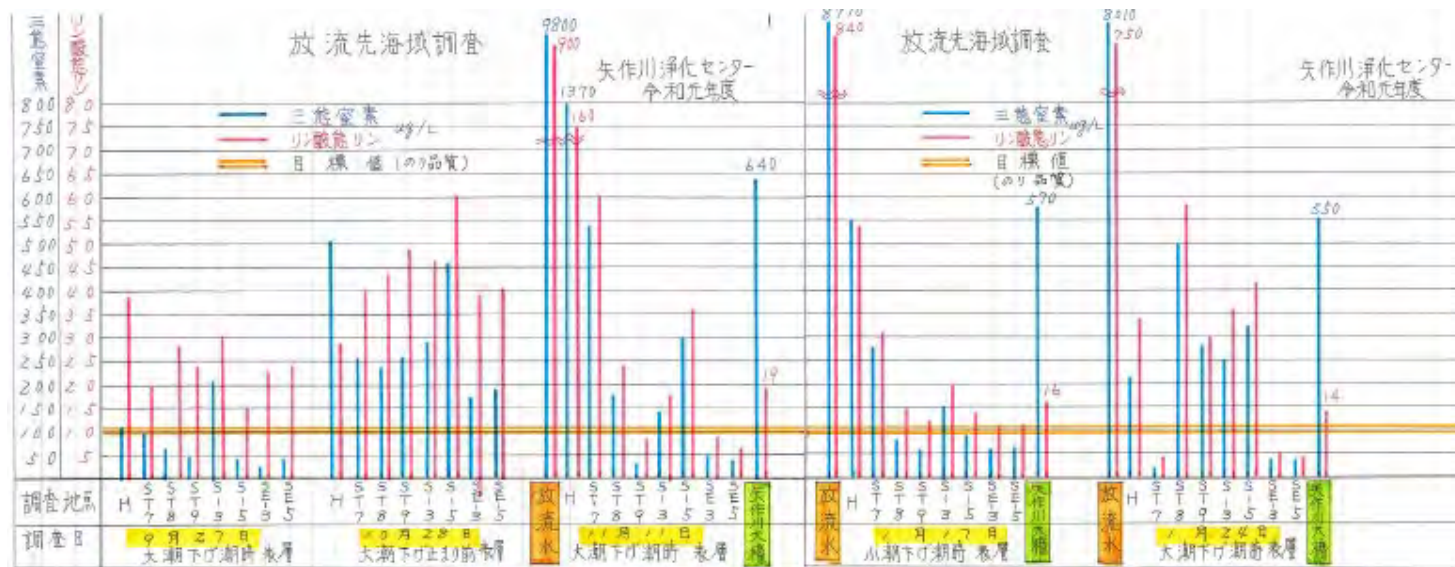
漂着ごみに関する現地視察（佐久島）

# 4. (2) 海部会の活動進捗報告 | 令和2年度の活動成果

豊かな海の再生に向けた取り組み | 今年度の活動方針に対する進捗状況

＜アサリをはじめとする三河湾の生物資源回復に向けた具体的な取り組みに関する意見交換と、「きれいな海 = 豊かな海」ではないという認識の周知を行う。＞

- 吉田漁業協同組合の石川甚右衛門氏より、矢作川浄化センター放流口～放流先海域における窒素・リンなどの計測結果と、アサリ・ノリの現状について、ご説明いただいた。
- 西三河野鳥の会の高橋伸夫氏より、佐久島に生息する鳥類について、ご説明いただき、環境と鳥類の変化について、意見交換を行った。



# 4.(2) 海部会の活動進捗報告 | 令和2年度の活動成果

海と人の絆 | 今年度の活動方針に対する進捗状況

<海の生き物に触れ合うことによる上下流連携をめざす>

○ バスツアーについて、吉田海岸におけるアサリや野鳥の情報共有を計画した。

<海と人の絆の再生に向けた情報共有を行う>

○ 西尾市佐久島で自然科学を取り込んだアート作品や、滞在型農業体験施設を視察し、三河湾と河川域の住民との交流手法について、情報共有を行った。



カモメの駐車場



おひるねハウス



佐久島クラインガルテン

# 4. (2) 海部会の次年度の活動目標 (案)

## 次年度の活動目標 (案)

- 今までの取り組みをふりかえりながら、アサリの問題、マイクロプラスチックの問題、土砂の問題に対して、情報共有と意見交換を行う。

## テーマ別の活動目標 (案)

### ■ごみの問題

- ごみの質も以前とは変化している。特にマイクロプラスチックの問題は、拾って処分できるものではないため、最新の情報を共有する。

### ■豊かな海の再生に向けた取り組み

- アサリをはじめとする三河湾の生物資源回復に向けた具体的な取り組みに関する意見交換と、「きれいな海 = 豊かな海」ではない、という認識の周知を行う。

### ■海と人との絆再生

- 海の生き物に触れ合うことによる、上下流連携をめざす。
- 外部への発信を行う。

### ■土砂の問題

- 土砂移動に関する情報共有を行う。

# 4. (3) 河川整備計画フォローアップ等について

## 実施項目

- ① 河川整備計画の概要 (参考資料参照)
- ② 過去の主要な洪水 (参考資料参照)
- ③ 治水 (洪水、高潮等による災害の発生  
の防止または軽減に関する事項)  
情報共有、意見交換 等
- ④ 利水 (河川水の適正な利用及び流水  
の正常な機能の維持に関する事項)  
情報共有 等
- ⑤ 環境 (河川環境の整備と保全に関する事項)  
情報共有 等
- ⑥ 土砂管理 (総合的な土砂管理に関する事項)  
情報共有、(勉強会) 等

## その他 情報共有

- 水防災意識社会の再構築 (参考資料参照)
- 矢作川水系流域治水プロジェクト  
(参考資料参照)

## 矢作川河川整備計画パンフレットより

### 調和のとれた矢作川流域圏の実現に向けた取り組み

#### 流域圏

流域圏一体化の取り組みに関する事項

#### 流域圏住民・関係者の連携強化

- 河川管理者が中心となり矢作川流域圏に關係する各組織のネットワーク化を図り連携を強化していきます。
- 流域圏住民と関係者間の交流を深めるため、流域圏内で各組織や団体が行っている川づくり、森づくり等の活動に関する情報発信を支援し、住民参加を促進させます。
- 各組織や団体が行っている森林保全、水質保全、三河湾再生に向けた取り組み等について、今後のさらなる充実に向け行政、住民、学識者等が情報共有、意見交換を実施し、さらに課題を解決するための場として新たな枠組み(流域圏懇談会(仮称))を検討していきます。

#### 流域圏住民の啓発活動

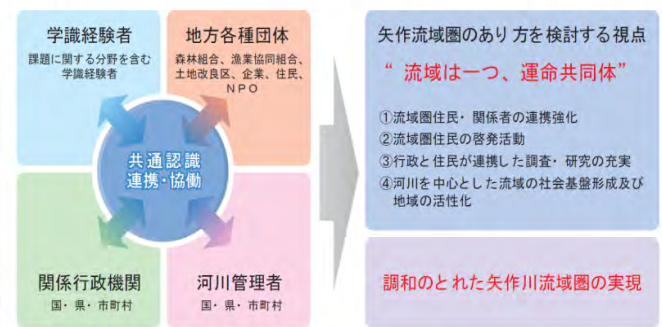
- 矢作川流域圏に関わる者の“流域は一つ、運命共同体”という意識を醸成するため、行政及び住民が流域圏におけるそれぞれの役割を認識するための啓発活動に協力します。
- 住民の防災意識向上のため、過去の災害の経験、知識を活用し、県・市町村と連携した防災学習や防災訓練等を実施するとともに洪水・土砂災害ハザードマップの作成・公表の支援を行います。
- 企業、住民・NPO団体が実施している河川清掃等の河川愛護活動については参加促進などの支援を行い、流域圏住民の河川愛護意識の高揚を目指します。

#### 行政と住民が連携した調査・研究の充実

- 行政・住民等が連携して定期的な環境調査や水質監視、土砂動態調査を実施し、流域の河川や森林等の現状や変化等を把握します。
- 調査で得られた情報や知見及び各機関や組織で実施された研究成果について情報の共有及び情報発信できる仕組みの構築を検討します。

#### 河川を中心とした社会基盤形成及び地域の活性化

- 流域圏における水源地の重要性を認識し、上矢作ダムに係わる経緯を踏まえ、森林保全基金等既存組織の活用を含め、農山村の活性化に資するよう関係機関と連絡調整を図り、水源地における必要な社会資本整備を推進します。
- 流域の豊かな自然環境・風土・歴史・文化等を踏まえ、本来河川空間が有している人々のふれあい・安らぎの空間、市街地周辺における豊かな自然環境を有する空間の創出を目指し、「かわまちづくり」に資する整備を図れるよう調整・連携を行います。



# 4. (3) 治水 | 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項

## ■ 早期の治水効果発現を目指す取り組み

- 矢作川では、平成12年9月東海(恵南)豪雨規模の洪水を安全に流下させるため、鶴の首上流の豊田市区間の河道掘削、中下流部の堤防整備・堤防強化、河道掘削、樹木伐開を重点的に進めてきた。
- 令和元年度末現在、河川整備計画で計上された事業の進捗率は、事業費ベースで約41%となっている。

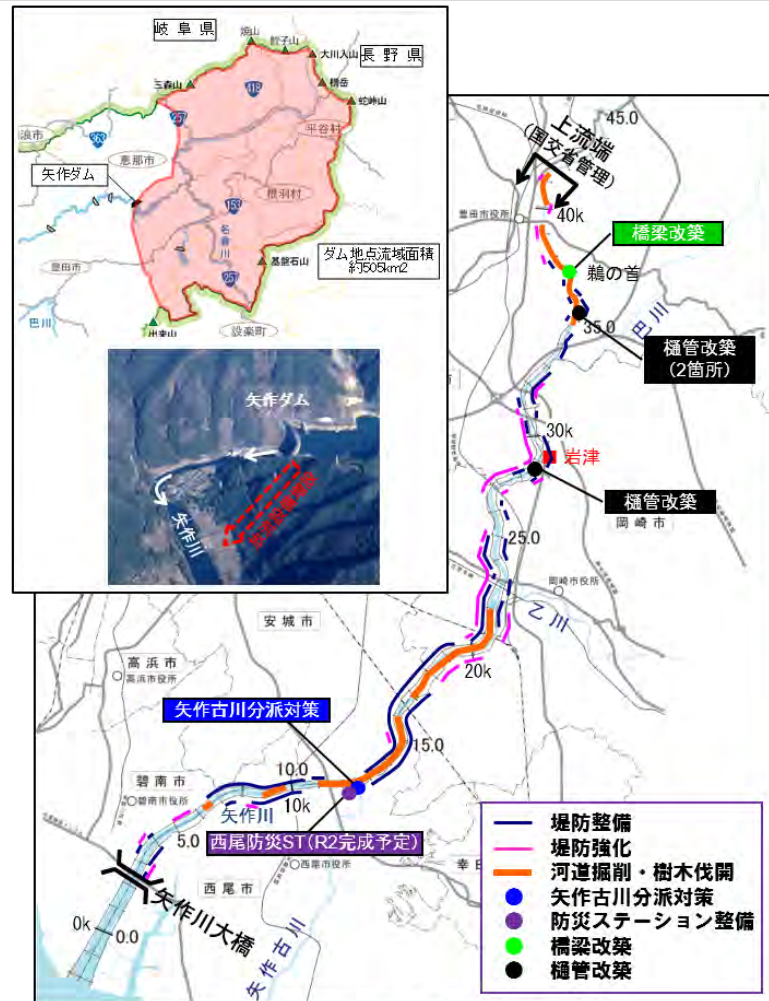
### 事業の進捗状況(矢作川)

- 引き続き、中流部・上流部における堤防整備・堤防強化、河道掘削・樹木伐開を進めていく。
- 同時に、「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」に基づき、早期に流下能力を向上すべき箇所の樹木伐開を進めていく。
- 矢作ダムでは、矢作ダム再生事業にて、放流能力増強のため、増設放流設備について検討を進めている。

矢作川水系河川整備計画に対する主な事業の進捗状況

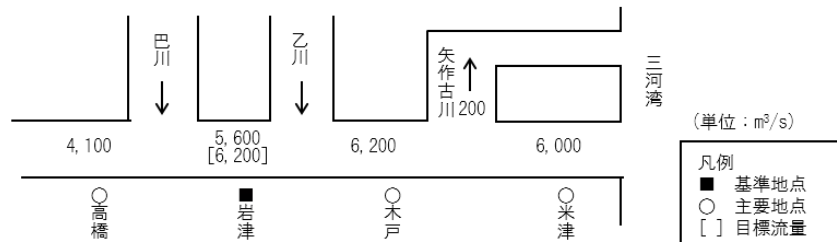
整備項目	事業全体	R1年度末完成
堤防整備・堤防強化※1	46 km	18 km
河道掘削	270 万m <sup>3</sup>	55 万m <sup>3</sup>
樹木伐開	27 万m <sup>2</sup>	19 万m <sup>2</sup>
矢作古川分派対策	1 箇所	1 箇所
橋梁改築	1 箇所	—
樋管改築	3 箇所	—
危機管理型ハード対策※2	6 km	6 km
西尾防災ステーション	1 箇所	—
矢作ダム再生事業	1 式	—

※1: 堤防強化には浸透対策、護岸整備を含む  
 ※2: 平成27年9月の関東・東北豪雨災害を踏まえ、新たに「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づくハード対策の一環として、氾濫が発生した場合にも被害を軽減する「危機管理型ハード対策」を導入し、令和2年度を目処に実施。  
 令和2年3月末時点



河川整備計画において目標とする流量と河道整備流量

河川名	基準地点名	河川整備計画目標流量	洪水調節施設による洪水調節量(矢作ダム)	河道整備流量	備考
矢作川	岩津	6,200m <sup>3</sup> /s	600m <sup>3</sup> /s	5,600m <sup>3</sup> /s	平成12年9月洪水対応



流域圏懇談会との関わり：【整備計画 第3章 河川の整備の実施に関する事項】  
 …… 地域住民や関係機関との情報の共有を図りつつ、河川整備を実施する。

# 4. (3) 治水 | 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項

## ■ 早期の治水効果発現を目指す取り組み

○矢作川水系河川整備計画では、戦後最大洪水となった平成12年9月洪水（東海（恵南）豪雨）と同程度の規模の洪水が発生しても安全に流下させることを目標に整備を進めているが、近年の水害の激甚化や気候変動を踏まえ、矢作川水系においても、早期の治水効果発現を目指した取り組みを推進する。

### ①被害の軽減に向けた治水対策の推進【河川における対策】

○さらに、気候変動等の計画規模を上回る洪水の対応として、関係機関や地域住民等と調整・連携し、総合的な被害軽減対策（既設ダムの洪水調節機能の強化等）を推進する。

### ②地域が連携した浸水被害軽減対策の推進【流域における対策】

### ③減災に向けた更なる取組の推進【ソフト施策】

#### ■河川における対策

- 全体事業  
 矢作ダム再生  
 河川改修
- 対策内容 矢作ダム放流設備の増設  
 鶯の首地区水位低下対策  
 （河床部掘削、狭窄部一部開削、橋梁改築）  
 中流部堤防整備、上流部河道掘削

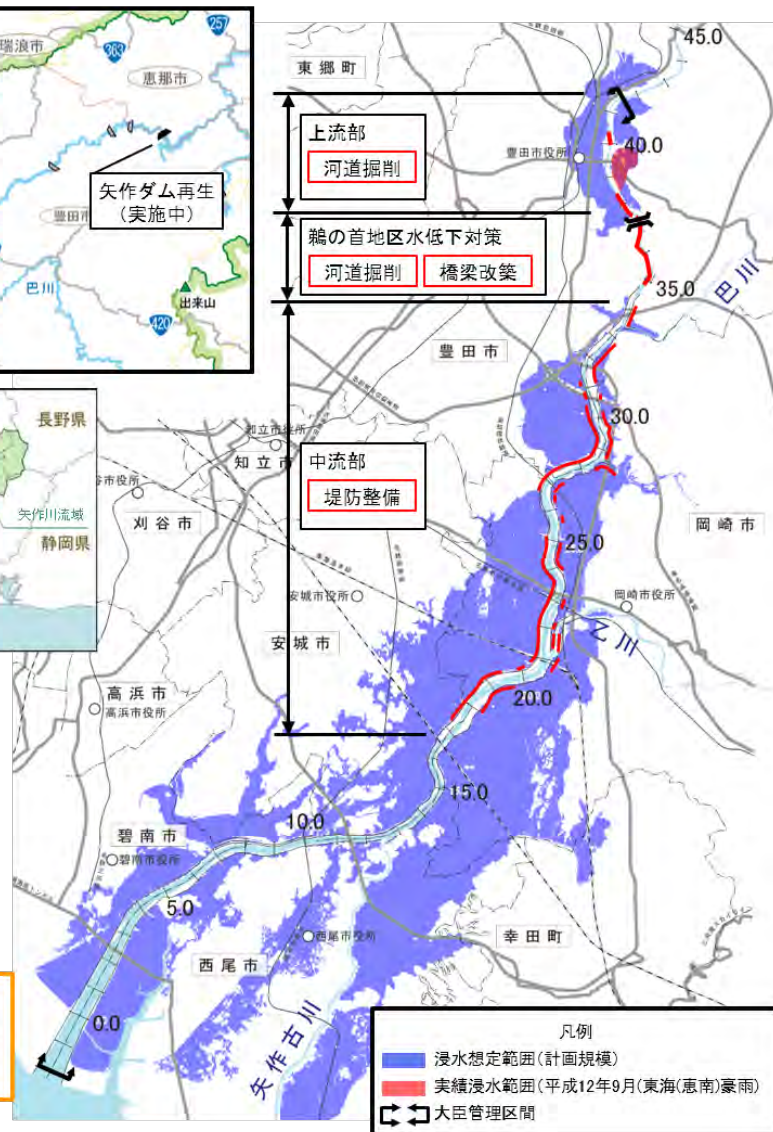
#### ■ソフト施策

- ・住民、教育機関、企業等への出前講座の実施
- ・国・県による洪水ハザードマップ作成支援
- ・水害リスクの高い区間の監視体制の整備
- ・危機管理型水位計による水位情報提供
- ・国・県・市が連携したタイムラインの運用
- ・愛知県実施「自ら守るプログラム」の普及促進
- ・洪水プッシュ型情報配信
- ・要配慮者利用施設の避難確保計画作成の促進
- ・河川管理者等と水防団等の情報共有
- ・自治体職員対象の排水ポンプ車運転講習会の実施
- ・流域住民と協働した河川の治水機能等の保全の取組み 等



#### ■流域における対策

- ・河川防災ステーション及び防災拠点等の整備
- ・既存ダムの洪水調節機能の強化
- ・排水作業準備計画の検証



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

# 4. (3) 治水 | 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項

## ■ 流域圏懇談会との関わり



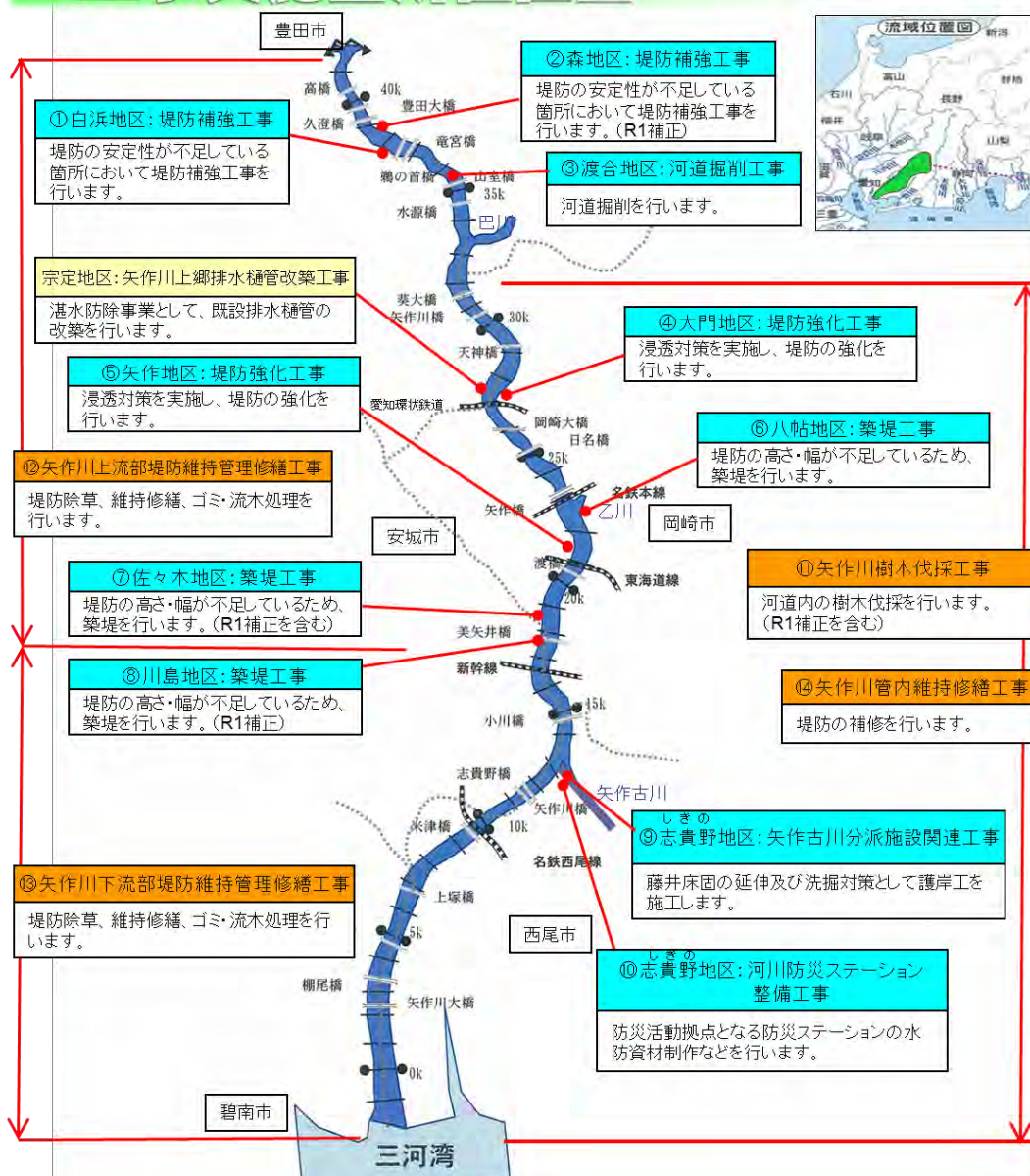
第53回川部会における矢作川の事業概要説明 2020年7月



事業概要説明に対する意見交換風景 2020年7月

事業概要 (抜粋) ➡

## 工事実施箇所位置図





# 4. (3) 治水 | 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項

## ■ 流域圏懇談会との関わり



第54回川部会における矢作川鶴の首地区水位低下対策事業説明 2020年10月



水位低下対策事業説明に対する意見交換風景 2020年10月

### 矢作川(直轄区間上流部)の現状と課題

矢作川明治用水頭首工の上流36.8K~37.6K間は、**鶴の首と呼ばれる狭窄区間**が存在しています。

豊田市区間の川幅**約200m**に対して**狭窄部は約100m**と川幅が狭く、洪水が流れにくく、**豊田市街区間の水位上昇の要因**となっています。

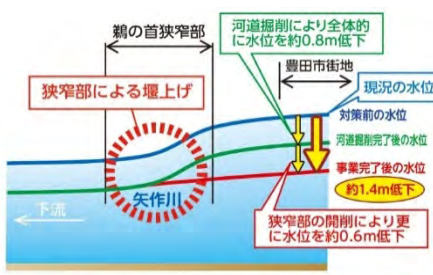


平成12年9月「東海豪雨(恵南豪雨)」の被害状況(豊田市森地区) ……

### 鶴の首地区水位低下対策の整備及び事業効果

- 鶴の首地区の**河床掘削、狭窄部開削**を実施することで、上流の豊田市街地(久澄橋下流:38.6k)で、**東海(恵南)豪雨(H12)**において**水位が約1.4m低下**します。
- これにより、豊田市街地(鶴の首地区上流区間)において東海豪雨(恵南豪雨)の被害が解消されます。

#### 鶴の首狭窄部の整備イメージ



事業概要パンフ(抜粋) ➡

…… 対策効果のイメージ(河川水位の縦断面) ……

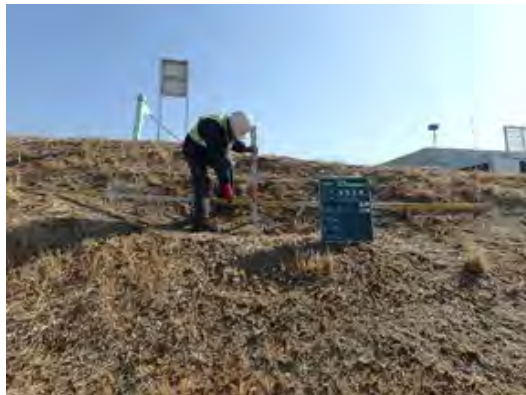
…… 対策による水位低下効果(横断面) ……

# 4. (3) 治水 | 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項

## ■ 事業の進捗状況（維持管理）



パトロールによる日常の巡視



堤防点検の実施状況



堤防の補修作業の状況



### ◆ 堤防の健全性を点検

堤防の亀裂、法崩れ、漏水などの異常箇所を早期に発見するため、堤防除草や、出水期前の堤防点検を実施します。

### 流域圏懇談会との関わり：

◆ 維持管理上の河道内樹木の伐採に際して、有識者等と合同の現地確認や意見交換を実施しながら進めています。

### ◆ 災害の未然防止

洪水時においても堤防や護岸の状況を監視し、異常が発見された場合は、速やかに水防工法等による緊急措置を実施できるように巡視を行い、破堤等による深刻な被害の発生を未然に防ぎます。

流域圏懇談会との関わり：【整備計画 第3章 第2節 河川の維持の目的、種類及び施工の場所】  
… 地域住民や関係機関との調整・連携を図りながら、適切な維持管理を行う。

# 4. (3) 治水 | 3か年緊急対策による樹木伐採の状況 (H30、R1、R2)

## ○防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策

平成30年7月豪雨を踏まえ、樹木繁茂・土砂堆積及び橋梁等による洪水氾濫の危険箇所等の緊急点検を行い、氾濫により著しい被害が生じる危険が高い箇所の樹木伐採を実施しています。



学識者との現地立会状況



○ H30,R1,R2の樹木伐採箇所



伐採集積状況



積込み運搬状況

## 4. (3) 利水 | 河川水の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

### ■ 事業の進捗状況

- 日常的な水量の監視を行うとともに、取水実態の把握を行っています。
- 許可水利権について、水利権更新時に使用水量の実態や給水人口の動向などをふまえた適正な水利権の許認可を実施しています。
- 矢作川水利調整協議会を開催し、水利調整を実施しています。
- 矢作川における河川の適正な流水管理や水利用の現状と課題をふまえ、河川環境の保全や適切で効率的な取水が行われるように、日頃から関係機関及び水利使用者と情報交換を実施しています。

流域圏懇談会との関わり：【整備計画 第3章 第1節 第2項 河川水の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項】  
… 河川流量やダム貯水量等の情報をインターネット等を活用し、利水関係者、関係機関及び地域住民等に対して広く提供する。

# 4. (3) 環境 | 河川環境の整備と保全に関する事項

## (1) 自然再生事業

矢作川のかつての良好な自然環境を再生するため、河口部において干潟の再生やヨシ原の再生に取り組んでいます。

また、施工した場所はモニタリングを実施するなど、保全にも配慮します。

## (2) 水辺整備事業

レクリエーション活動や憩い交流の場としての利活用の推進を図るため、水辺環境の整備を行っています。

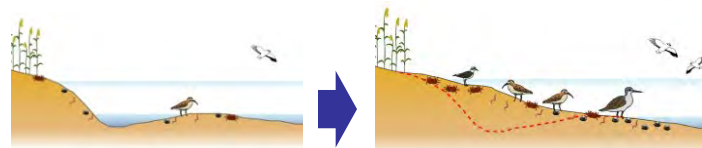
豊田市白浜地区、千石地区において、矢作川かわまちづくり整備を継続して実施します。

### ▽矢作川自然再生事業

実施箇所	内容	期間
河口部自然再生	ヨシ原・干潟の再生	H15-R7

取り組み前 (例 干潟)

取り組み後 (例 干潟)



砂を投入した干潟の造成  
(対策イメージ図)

### ▽矢作川水辺整備事業

実施箇所	内容	期間
白浜水辺整備	緩傾斜堤防 高水敷整正 階段整備 樹木伐採	H30-R7



## (2) 水辺整備 (白浜、千石)

## (1) 河口部自然再生



実施箇所

# 4. (3) 土砂管理 | 総合的な土砂管理に関する事項

## ●矢作川水系の土砂管理の取り組み

矢作川では、山から海までの土砂の移動を一貫として捉え、土砂の移動を総合的に把握することにより、土砂移動に関して必要な対策を検討しています。

矢作川の土砂に関する喫緊の問題は、平成12年の恵南豪雨等により、矢作ダムでは土砂堆積が著しく進行したため、治水・利水機能の低下を防止することが挙げられます。

そのための取り組みとして、「矢作川水系総合土砂管理検討委員会」を設立し、総合的な土砂管理の検討を行っています。



「総合土砂管理検討委員会」開催状況(平成31年3月)

## ●矢作川水系の土砂管理の検討

矢作川水系の一貫した土砂移動の連続性を可能な限り確保するため、土砂がどのように川を流下し、どのような影響があるのかを検証しています。そのため、置土実験などを実施しながら総合的な土砂管理の手法について、検討を進めています。

今年度は、年度を跨いで笹戸堰堤上流「時瀬地区」において、置土を予定しています。



例)越戸堰堤下流置土状況(令和元年5月)

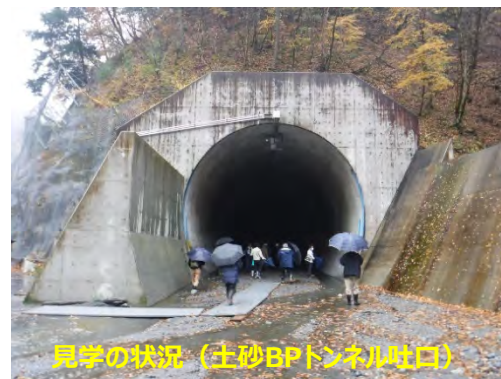
## ●流域圏懇談会との関わり

今年度は、勉強会を開催することができませんでした。

参考に昨年度は、置土実験の調査結果の共有や土砂管理の先進地である小渋ダムの土砂バイパストンネル見学を通して、意見交換を行いました。



昨年度の「勉強会」参加者



見学の状況(土砂BPトンネル吐口)

# 4. (4) 矢作川流域圏懇談会10年誌について

## 【矢作川流域圏懇談会10年誌 編集委員会・座談会】

2020年の夏に矢作川流域圏懇談会が10年目を迎えました。今年度も流域圏担い手づくり事例集の制作に携わってきたメンバーが編集委員（浜口美穂委員長、洲崎燈子委員（山）、近藤朗委員（川）、高橋伸夫委員（海））となって10年誌の制作にあたりました。

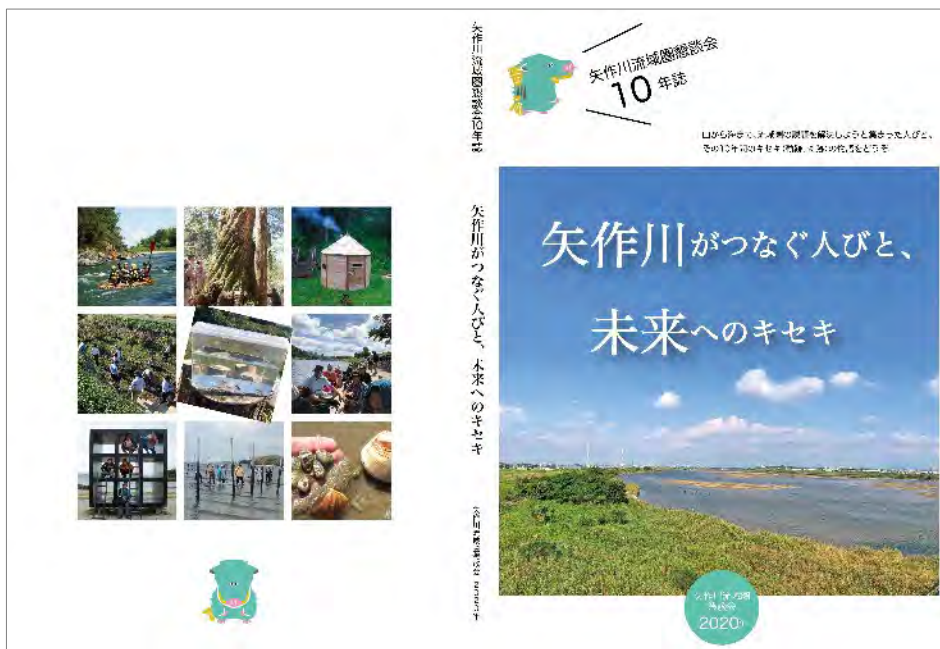
### 【編集委員会の実施】

第1回：令和元年8月3日	第2回：令和元年9月6日	第3回：令和元年11月7日
第4回：令和元年12月23日	第5回：令和2年1月31日	第6回：令和2年3月1日

パイロット版

第7回：令和2年6月5日	第8回：令和2年7月4日	第9回：令和2年8月1日
第10回：令和2年9月5日	第11回：令和2年10月24日	第12回：令和2年11月7日
第13回：令和2年11月20日	第14回：令和2年12月17日	座談会：令和2年7月22日

今年度対応



矢作川流域圏懇談会10年誌（表紙）



矢作川流域圏懇談会10年誌編集委員会 話し合いの風景

# 4. (4) 矢作川流域圏懇談会10年誌について

## 別添資料

「矢作川流域圏懇談会10年誌をご覧ください」

もくじ

プロローグ 矢作川及び流域の概要

- (1) わたしの矢作川流域物語
- (2) 矢作川流域圏懇談会とは
- (3) 各部会10年のふりかえり
- (4) 想いの源流を探る「キーパーソンヒアリング」
- (5) 担い手づくり事例集から見えてきたもの
- (6) 新たなステージへ

10年の成果だけでなく、苦勞したところも記録して、他流域の読者が同じような会をつくった時、参考になるような冊子にしよう！







# 4. (4) 組織の立ち上げと再構築

(第2章)

## ◆ 市民会議（2010～17年）から市民部会（2018年～）へ

- 当初の市民会議は、ファシリテーターが不在となったこと、ネガティブな発言が多く出された時期が続いたこと、決定した3つの流域連携テーマにとらわれ過ぎたことなどが原因となり、会議が膠着状態に。
- 2018年3月の全体会議で「市民会議」を「市民部会」と名称変更し、市民部会が山・川・海の各地域部会に横串を通すような体制の構築を目指すべく再スタートをきり、流域を一つの生態系と捉えた新しい発想での活動に切り替えて今に至る。



市民会議から市民部会へ

## ◆ メンバーが自由に動ける組織の維持と継続に向けて

- 事務局は懇談会メンバーがそれぞれ異なる立場で、自由闊達に意見をやりとりし、緩いながらつながりを維持する体制づくりを志向した。
- コアになるメンバーに気心知れた関係が醸成され、新たにきた人を巻き込んでいけるような雰囲気をつくり、個々の人間の見えない仕切りを取り除いてフラットな関係をつくる、試行錯誤の10年だったと言えるだろう。



# 4. (4) 懇談会を支えてきたキーパーソン

(第4章)



蔵治光一郎さん(山部会座長)

流域圏懇談会は楽しくて安心して話すことができる。多様なジャンルの一流の方が参加し交流しているのが面白い。自分がいろいろな情報を持ってくると、それに対していろいろな意見や情報が返ってくる。森や木材の課題に対していろいろな立場で考えることができ、そうして得られた知見をいろいろな委員会の中で発言する際に活かしている。

鷺見哲也さん(川部会初代座長)

川の理想像を描くとき、今の川部会がある意味救われているのは、多くのリクエストが生き物に行くかもしれないけれど、「人が」というところもあるし、「アユが」というところも対応できるメンバーがそろっていることです。どれくらい、どの程度川の中に入れ込めるんだろうかというようなことは、やりたいですね。



青木伸一さん(海部会座長)

この10年間で、自分としても海を見る見方が変わった。以前は汚い海をどうやってきれいにするかを第一に考えていたが、現在では透き通ったきれいな海ではなく、内湾では多少汚く見える海が豊かな海であるということ。要は工業廃水の重金属や化学物質、人間生活から排出される合成洗剤などが問題であって、本来生物から排出される有機物は、下流に生息する野生生物にとって重要な栄養源であることを認識させられた。



溝口敏明さん(初代事務局)

私は、懇談会を立ち上げるために来たと言っていい。赴任から懇談会設立までの期間は、ほぼ5ヵ月しかなく、参加者公募から枠組み構成など設立総会まで奔走した。実のところ、懇談会については、「凄いことを整備計画に盛り込んだな」という感覚だった。やるのが全ての課題解決につながる訳だから、これはまさしく自分が望んでいた仕事だ、「よし、何としてもつくってやろう！」という気概で臨んだ。



## ① 公害・矢水協時代 (1970年代～)

矢作川沿岸水質保全対策協議会 (矢水協) 時代「流域は一つ、運命共同体」の提唱へ

- ・ 矢水協による上下流連携の推進と支援体制の確立
- ・ 流域下水道事業の展開



矢水協

## ② 近自然時代 (1990年～)

近自然時代「川を市民に取り戻そう」 (豊田市、矢作川漁協を中心として)

- ・ 河川法改正
- ・ 豊田市、漁協、研究所が主体となった取り組み
- ・ 矢作川水系の河川計画



古川水制工

## ③ 流域圏の転換期

- ・ 平成の大合併
- ・ 地域の新たな取り組み 特にめざましい女性たちの活躍
- ・ 森の健康診断、木の駅などによる新たな森づくりの展開
- ・ 若者たち、よそ者たちの流入・移住・活動開始



天下杉

## ④ 矢作川流域圏懇談会の時代へ (2010年～)

矢作川流域圏懇談会「山・川・海 流域一体で川づくり」

- ・ 矢作川水系河川事業等の動き
- ・ 新たな市民による水辺活用・再生の動き



新・矢作川筏下り

# 4. (4) 事例集から見るこれからの矢作川流域

(第6章)

6冊の「担い手づくり事例集」をつくるため、102の団体に取材を行う中でこれからの流域づくりのヒントが見えてきた。 → 座談会を実施し総括



「新しい価値観」の創造

地域のみんなを巻き込む力

いなかの魅力をおしゃれにPR

異質・スキマに注目



女性に学ぶ「楽しみ方」



合併で行政ができなくなったことをやる人々が出てきた



むずかしさ、わずらわしさを楽しむくらし

山・川・海の動きにまちを巻き込め！



## 4. (4) 編集委員から



浜口美穂 (編集長)

いつもの編集委員会だと、原稿を書かない人(N羽さんとか)のお尻叩きが大変なのですが、今回は増え続ける原稿の量を抑えるという、初めての経験をしました。今まで制作した冊子の中で一番楽しい編集作業でした！

今回の編集作業で全ての活動の開催記録に目を通しました。流域圏懇談会の10年だけでなく、伊勢・三河湾流域圏の50年、そして自分の半生までもふりかえってしまいましたよ～。



近藤 朗 (川部会)

今回のとりまとめをしていて、川部会に本気の活動をしてもらうためには、メンバーに矢作川の水や恵みで成り立っている企業や農協などを、できるだけ取り込むべきだと思いました。

編集委員会ではいつも皆さんが矢継ぎ早に発言されるので、議事録を書くのがチョー大変でした～。

この冊子を読んで、「うちの流域(地域)でもこんな会をつくりたい」と思ってくださった方に、「きっとつくれますよ」とお伝えしたいです。これまで私たちが事例集で取り上げてきたような、地に足のついた、身近な人とつながる暮らしの中で幸せを感じながら生きている人たちはどこにでもいます。そして、集まった人たちがどんなに少なくても、できることは必ずあります！



中田 慎 (事務局補佐)



高橋伸夫 (海部会)



洲崎燈子 (山部会)

## 4. (5) 意見交換①(今年度の活動に関するとりまとめ)



# 意見交換①

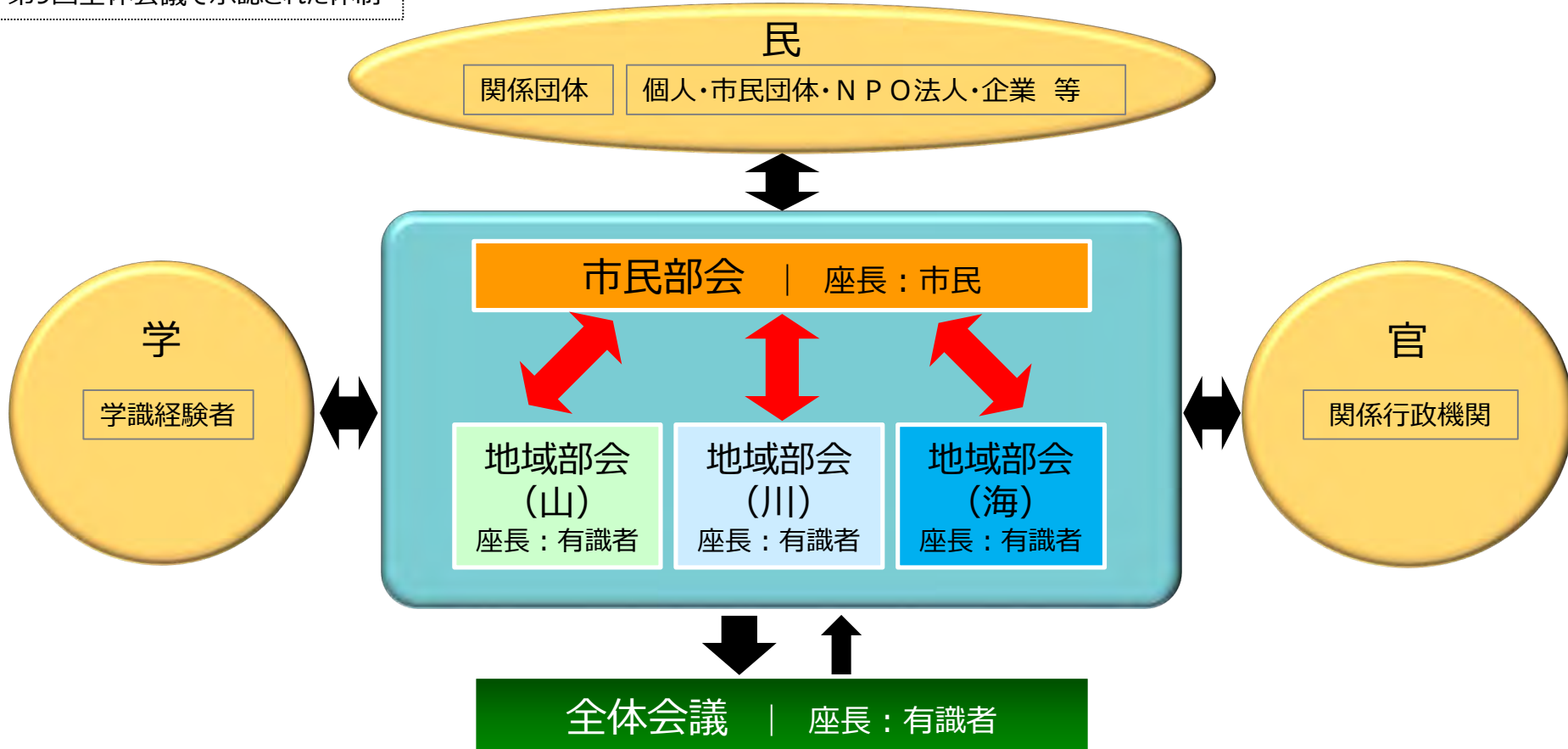
(今年度の活動に関するとりまとめ)

# 5. (1) 今後の体制等について

## ■ 体制図

- 市民が主体となる市民部会（※合同部会の座長：市民）と地域部会（座長：有識者）を設置して、流域連携テーマや流域のイベントを話し合う場とする。
- 地域部会のWG・フィールドワーク等は必要に応じて開催するものとし、市民部会発の勉強会を行う。

第9回全体会議で承認された体制





# 5. (1) 今後の体制等について

## ■ スケジュール案

- 市民部会は、WG2回、まとめの会1回を実施するとともに、勉強会(●)を2回、バスツアー(●)を1回行う。
- 勉強会と流域連携イベントの実施に関する意見は、市民部会が発信し、各地域部会を横断的につなぐ役割を担う。
- 地域部会WGは、各4回を基準として開催する。フィールドワークは随時実施する。また、今まで通り総括として全体会議に向けた「まとめの会」を12月頃に実施する。
- 全体会議を2月に実施し、一年間の成果と今後の課題を話し合う場とする。
- 流域連携に関するイベントを2回実施する。  
①矢作川感謝祭 (夏) ②三河湾大感謝祭 (秋)

体制・イベント		月										
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
市民部会	WG 勉強会		←	●	●		●		→			
	まとめの会									●		
地域部会	WG フィールドワーク		←								→	
	まとめの会									●		
全体会議	話し合いの会											★
流域連携に関するイベント							①		②			

# 5. (2) 矢作川流域圏ホームページのご案内

## ■ ホームページにおける動画配信を開始



矢作川流域圏懇談会ホームページ(令和3年2月19日時点)



FWや現地視察の動画掲載を開始！



矢作川流域圏懇談会ホームページ(令和3年2月19日時点)

# 意見交換②

## (今後の展望・まとめ)

# 情報共有・連絡事項など



# 7. 閉会

## 調和のとれた矢作川流域圏の実現に向けて

矢作川流域圏懇談会では、設立10年を経過し、関係する皆様が流域における課題や今後の方針について話し合える場が醸成されてきました。また、市民の目線に立った情報共有や、流域を超えて多くの人々が共有できる場をつくれるようになってまいりました。

引き続き、この流域圏懇談会で情報共有し、また、多くの人々への情報発信ができるよう、ご参加・ご支援を宜しくお願い致します。

### 【矢作川河川整備計画】

#### 第3章 河川の整備の実施に関する事項

##### 第3節 調和のとれた矢作川流域圏の実現に向けた取り組み

矢作川流域では、過去から住民が一体となって流域圏という考え方のもと様々な諸課題に取り組んできた歴史がある。

今後、矢作川における治水、利水、環境、総合土砂管理、維持管理等の諸課題を解決し整備計画の目標を達成していくためにも“流域は一つ、運命共同体”という共通認識を持ち、調和のとれた流域圏全体の持続的発展を目指す必要がある。

このためには、学識者や森林組合、漁業協同組合、土地改良区、企業、市民団体、NPO等の各種団体、国、県、市町村の関係行政機関がそれぞれの役割について認識を持ち、互いに連携して諸課題の解決に取り組む必要がある。



国土交通省 豊橋河川事務所

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism